

男性は手伝うようになり、女性は手伝わなくなったのか？

— 子ども時代の家での食事の準備・後片付け行動 —

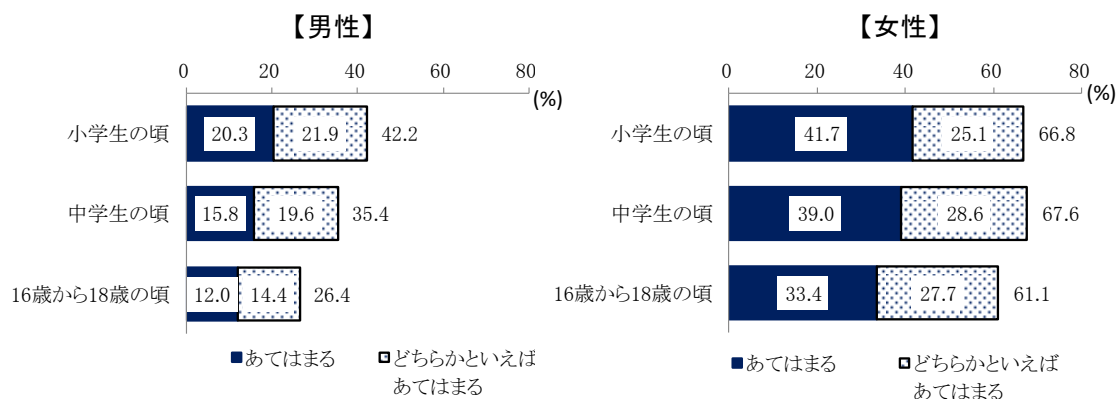
主任研究員 北村 安樹子

先に発行したレポート「40歳以上の男女が振り返る若い頃の食生活」では、40代以上の男女に、現在や20～30代の頃の食生活についてたずねた調査の結果から、男女のライフスタイルの変化について論じた（2020年2月4日当研究所HPにて公開、<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2019/wt2002.pdf>）。今回は、小学生から18歳頃までの間に、家での食事の準備や後片付けを手伝ったかどうかについて、全国20歳以上の男女にたずねた調査の結果から、これらの手伝い行動に、世代によってどのような違いがみられるのかを考察する。

<子ども時代に、手伝っていた人が多い女性>

農林水産省が行った調査によると、小学生の頃、家では食事の準備や後片付けを手伝ったと答えた人の割合は、男性の42.2%に対し、女性では66.8%と、女性が男性を大幅に上回っている（図表1）。このような傾向は、中学生の頃（男性35.4%、女性67.6%）や16歳から18歳の頃（男性26.4%、女性の61.1%）に関する回答でもみられ、いずれも女性の経験者割合が男性を30ポイント以上も上回っている。女性では、子どもの頃から家庭で食事の準備や後片付けを手伝った経験をもつ人が男性に比べ多いことを確認できる。

図表1 子ども時代に「家では、食事の準備や後片付けを手伝った」と答えた人の割合
(回答者全体、性別)



資料：農林水産省『食育に関する意識調査報告書（令和2年3月）』より作成

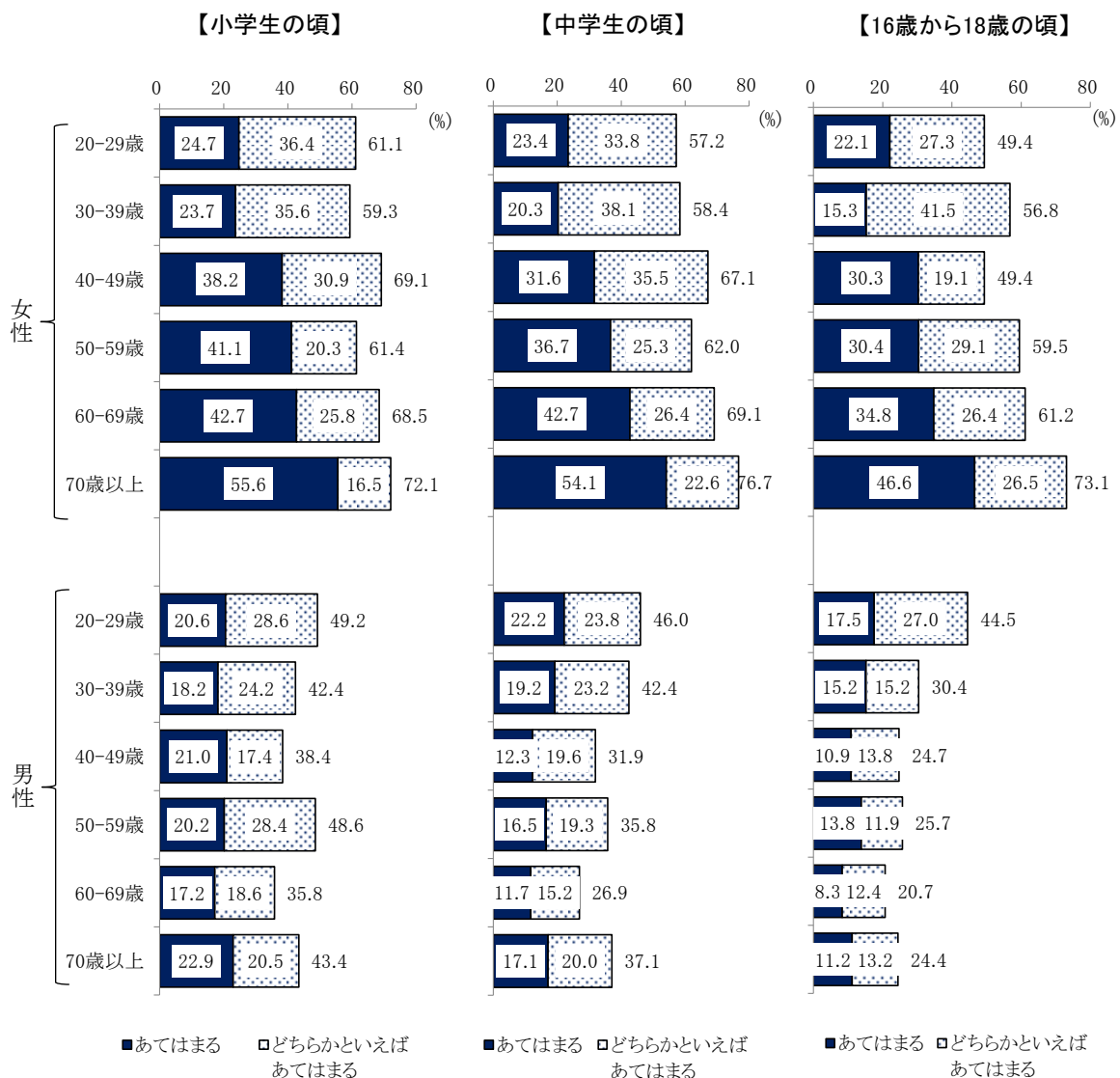
注：設問文は「あなたの小学生の頃（中学生の頃、16歳から18歳の頃）の食生活について伺います。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。」選択肢には、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」のほか、「どちらともいえない」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」がある。

<年配世代に比べ、手伝っていた人が少ない女性、多い男性>

しかし、この結果を性・年代別に比較した結果をみると、特に、若い世代の子どもの頃の家での食事の準備や後片付け行動に、年配世代とは異なる実態が確認される(図表2)。

まず、女性についてみると、60～70代以上の女性ではいずれの時期も手伝っていたと答えた人が6割～7割超を占めるのに対し、20～30代の若い女性では5～6割前後にとどまっている。この調査は20代の回収率が低く、選択肢には「どちらともいえない」があるため解釈には留意が必要なものの、子ども時代に家で食事の準備や後片付けを手伝った経験をもつ女性は、年配世代に比べ少ないということになる。

図表2 子ども時代に「家では、食事の準備や後片付けを手伝った」と答えた人の割合(性・年代別)



資料・注は図表1に同じ

一方、男性についてみると、女性ほどはっきりとした傾向ではないが、若い世代では手伝っていたと答えた人が年配世代に比べ多くなっている。このような傾向は中学生の頃や16歳から18歳頃についての回答で特に顕著にみられ、20代の割合が60～70代を大幅に上回っている。

つまり、世代間のギャップという点に注目した場合、子ども時代に家の食事の準備や後片付けを手伝っていたかどうかに関する若い世代の経験は、年配世代が過ごしてきた自身の子どもの時代とは異なっている可能性がある。年配世代からみると、自分の過ごした子ども時代に比べ、家で食事の準備や後片付けを手伝った経験をもつ女性が若い世代には少ない一方、そのような経験をもつ男性は自分たちの世代より多いということになる。

＜食事の準備や後片付けに慣れた男性の増加と、不慣れな女性の増加？＞

残念ながら、今回公表された資料からは、子ども時代に家の食事の準備や後片付けを手伝っていた若い世代が、他にどのような特徴をもつのかを知ることはできない。ただ、一般的に若い男性は、家の食事の準備や後片付けを含め、家事は女性が行うものだという意識をもつ人が年配世代に比べ少ないと考えられる。子ども時代の経験の差が、そのような意識の違いとなって表れているのかもしれない。

一方、若い女性でこれらの手伝いをした経験者が年配世代に比べ少ないことは、女性のなかに、子ども時代から家で食事の準備や後片付けにかかわる習慣やそのためのスキルを身につける機会が少なかった人が増えている可能性をうかがわせる。進学率の上昇や晩婚・晩産化などライフコースの多様化等を背景に、年配世代が過ごしてきた時代に比べ、食事の準備や後片付けを行う手段・環境、家庭での食事の位置づけは時代とともに大きく変化してきた。子ども時代にこれらの経験をもつ人が、年配世代に比べ若い男性で多く、若い女性で少ないという実態は、年配世代の食事に関する意識やライフスタイルをもっと自由で柔軟なものに変えていく面もあるのではないか。

(主任研究員 きたむら あきこ)